

<EU 議員 ニルス・トーバルスさんからのメッセージ>

「日本では今、バイオマス燃料の持続可能性が議論されており、原料バイオマスのなかにパーム油も含まれているとうかがいました。EU は輸送用燃料であるバイオディーゼルに、パーム油を輸入して使ってきました。しかし、今後、世界人口の増加に伴い、さらに食料やその他高付加価値用途での持続可能なパーム油の利用が望まれます。また、バイオマスはカーボンニュートラルと考えられていたので、パーム油を輸送用燃料に使ってきたのですが、現在ではパーム油をエネルギーに使ってもライフサイクル GHG で見れば GHG 削減にほぼ寄与しないという認識に至っております。パーム油含めて、バイオマスは土地開墾、栽培、原料発生工程、燃料加工工程、輸送、エネルギー変換効率などの段階で大なり小なりの GHG を発生させ、カーボン負債を伴います。そのため、EU 再生可能指令 II ではライフサイクル GHG 計算を義務付けて、バイオマスによる GHG 削減効果をできるだけ把握できるようにしています。

EU はパリ協定での GHG 削減を確実なものにしていくために、その手段や方法をより厳しく査定していく方向です。バイオマスは我々にとって重要なエネルギー源であることに変わりなく、日本含め世界の国々とも持続可能性においてもハーモナイズしていく必要があると考えております。食料など他用途と競合することなく、環境負荷の低減化や GHG 削減効果につながるバイオマス利用についてのご議論を期待しております。

Member of EU Parliament: Nils Torvalds,
(Political advisor: Alexander Lang)